

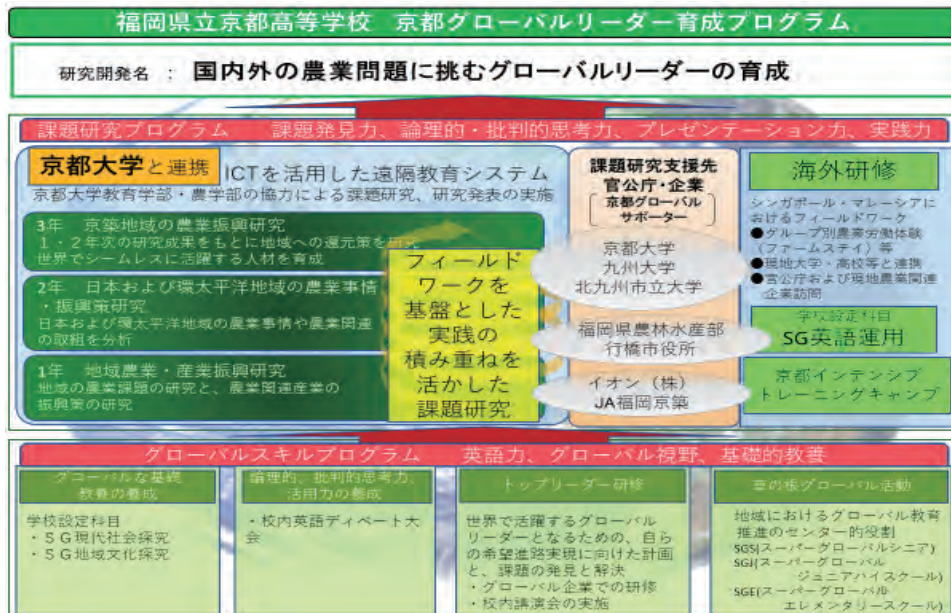
福岡県立京都高等学校

国内外の農業問題に挑む グローバルリーダーの育成

【構想の概要】

京都大学（ICTを活用した遠隔教育システム）や地元行政機関、大学、農業関連企業等との連携のもと、世界的視野に立って農業問題を研究し、その課題解決に必要な主体的かつ協働的に行動できる力、批判的思考力や論理的思考力等を有するグローバルリーダーの育成方法に関するプログラムの開発を行う。

研究はフィールドワークを中心に生徒が京築地域の農業事情を調査するとともに、日本及び環太平洋地域の農業問題や農業活性化に向けた取組を学び、京築地域に紹介・還元をする形で進める。その過程において、生徒は農業の振興策をグループで研究し発表を行う協働的な学習に取り組む。教育効果については、ルーブリックを用いたパフォーマンス評価・アンケート・ポートフォリオ等によって評価・検証を行う。



平成30年度入学生 教育課程表

教科	科目	学年		1			2			3		
		類型	共通	SG文系	SG理系A	SG理系B	文A	文B	理A	理B		
国語	国語総合	4	4									
	国語表現	3						?				
	現代文B	4		2	2	2	2	2	2	2		
	古典B	4		3	2	2	4	4	3	3		
	*55年度文化探訪	1										
歴史	世界史A	2										
	世界史B	4		2	2	2						
	日本史A	2					④	④				
	日本史B	4		③	②	②			②	②		
公民	現代社会倫理	2	2						2	2		
	*SG現代社会探究	1	1									
数学	数学I	3	3									
	数学II	4		4	3	4				2		
	数学III	5							4			
	数学A	2	2									
	数学B	2		2	2	2						
	*応用数学α	2~6						5	4	5		
	*応用数学β	2~6								3		
	物理基礎	2	2									
	物理	4			③	③			④	④		
	化学基礎	2		2	2	2						
化学	4							4	4			
理科	生物基礎	2	2									
	生物	4										
	*総合化学	1~4							2			
	*総合生物	1~4		1					1			

保健体育	芸術	外国語	総合	家庭	情報	特別活動	その他
7~8	1	3	2	2	2	2	2
2	2	2	2	2	2	2	2
1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19	19	19
20	20	20	20	20	20	20	20
21	21	21	21	21	21	21	21
22	22	22	22	22	22	22	22
23	23	23	23	23	23	23	23
24	24	24	24	24	24	24	24
25	25	25	25	25	25	25	25
26	26	26	26	26	26	26	26
27	27	27	27	27	27	27	27
28	28	28	28	28	28	28	28
29	29	29	29	29	29	29	29
30	30	30	30	30	30	30	30
31	31	31	31	31	31	31	31
32	32	32	32	32	32	32	32
33	33	33	33	33	33	33	33
34	34	34	34	34	34	34	34
35	35	35	35	35	35	35	35
36	36	36	36	36	36	36	36
37	37	37	37	37	37	37	37
38	38	38	38	38	38	38	38
39	39	39	39	39	39	39	39
40	40	40	40	40	40	40	40
41	41	41	41	41	41	41	41
42	42	42	42	42	42	42	42
43	43	43	43	43	43	43	43
44	44	44	44	44	44	44	44
45	45	45	45	45	45	45	45
46	46	46	46	46	46	46	46
47	47	47	47	47	47	47	47
48	48	48	48	48	48	48	48
49	49	49	49	49	49	49	49
50	50	50	50	50	50	50	50
51	51	51	51	51	51	51	51
52	52	52	52	52	52	52	52
53	53	53	53	53	53	53	53
54	54	54	54	54	54	54	54
55	55	55	55	55	55	55	55
56	56	56	56	56	56	56	56
57	57	57	57	57	57	57	57
58	58	58	58	58	58	58	58
59	59	59	59	59	59	59	59
60	60	60	60	60	60	60	60
61	61	61	61	61	61	61	61
62	62	62	62	62	62	62	62
63	63	63	63	63	63	63	63
64	64	64	64	64	64	64	64
65	65	65	65	65	65	65	65
66	66	66	66	66	66	66	66
67	67	67	67	67	67	67	67
68	68	68	68	68	68	68	68
69	69	69	69	69	69	69	69
70	70	70	70	70	70	70	70
71	71	71	71	71	71	71	71
72	72	72	72	72	72	72	72
73	73	73	73	73	73	73	73
74	74	74	74	74	74	74	74
75	75	75	75	75	75	75	75
76	76	76	76	76	76	76	76
77	77	77	77	77	77	77	77
78	78	78	78	78	78	78	78
79	79	79	79	79	79	79	79
80	80	80	80	80	80	80	80
81	81	81	81	81	81	81	81
82	82	82	82	82	82	82	82
83	83	83	83	83	83	83	83
84	84	84	84	84	84	84	84
85	85	85	85	85	85	85	85
86	86	86	86	86	86	86	86
87	87	87	87	87	87	87	87
88	88	88	88	88	88	88	88
89	89	89	89	89	89	89	89
90	90	90	90	90	90	90	90
91	91	91	91	91	91	91	91
92	92	92	92	92	92	92	92
93	93	93	93	93	93	93	93
94	94	94	94	94	94	94	94
95	95	95	95	95	95	95	95
96	96	96	96	96	96	96	96
97	97	97	97	97	97	97	97
98	98	98	98	98	98	98	98
99	99	99	99	99	99	99	99
100	100	100	100	100	100	100	100

はSGH事業に伴う学校設定科目

学校設定科目との連携による探究の推進

「SG現代社会探究」では、「地域農業・産業振興策研究」を行うにあたり、農業問題の基礎的学習、新聞を活用したグループワーク、SDGsを題材に社会問題の相関を考察する学習を行うことによって、生徒が現代社会の諸課題を自分事としてとらえ主体的・意欲的に研究テーマを設定することにつながっている。また、ディベート活動の実施により論理的・批判的思考力を養い、研究レポート作成の一助としている。さらに、「SG地域文化探究」では、本校が位置する京築地域の伝統文化（神楽・連歌・歴史）を学ぶことによって、研究を進める上での基盤となる郷土への理解と地域を愛する心を育てている。

「SG英語運用」では、SDGsに関するグループディスカッション、世界の農業事情に関する文献講読、日本の文化に関するプレゼンテーション、英語ディベートを行い、「日本及び環太平洋地域の農業事情・振興策研究」と相互補完的な連携を保っている。なお、培われたグローバルな視野や英語コミュニケーション力は海外研修およびJICA九州における外国人研修生との交流をより有意義なものとしている。

高大連携の深化

京都大学農学部・教育学部と連携し、テレビ会議システムを活用した遠隔講義・レポート指導を実施している。また、1学年を対象として教育学部准教授によるセミナー「課題研究の意義と留意点」を毎年開催している。さらに、京都大学森里海連環学教育研究ユニット主催による「森里海ラボ」およびポスター発表会へ参加の機会を頂き、他校の生徒とのつながりを築くとともに、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を育成している。

北九州市立大学とは「高大接続を意識したアクティブラーニング研究」を共同実施し、職員研修の開催や指導法の開発・実践・検証に取り組んでいる。コミュニケーション力向上を目的とした生徒対象のワークショップはその後の研究グループの協働推進やインタビュー調査の充実にも活かされている。

成果普及の取組と生徒の変容

3年次に「草の根グローバル活動」を実施している。行橋市役所、福岡県行橋農林事務所、京築地域の中学校（写真）にて成果発表や協議等を行うことで成果の普及に取り組み、地域を支えるグローバル人材としての意識を高めている。また、九州大学アカデミックフェスティバル、農林事務所主催「農林業が育む京築地域元気づくり推進大会」、九州SGHフォーラム、ESD国際シンポジウム等に出場している。



生徒の変容としては問題発見・解決力や社会参画意識の向上等がある。解決策の提案にとどまらず、実践・検証に取り組む研究グループが増えている。

新たなカリキュラムの策定と評価

SGHの成果を指定終了後にも活かすため、新カリキュラム（「京都グローバル人材育成プロジェクト」3か年プラン）の策定に取り組んだ。SGHの諸活動、進路学習等、各教育活動により育てたい資質・能力を明確化し、活動相互のつながりを重視した上で整理し、3年間の流れのなかに配列し直した。今後は各教科とのつながりもより明確にしていく。

また、本校が目指す生徒像について、その達成に必要な資質・能力の定着を測る指標の作成に取り組んだ。3年間の全課程において活用し、活動の節目において評価する。さらに、生徒が自己評価を行う本校独自のポートフォリオ『Plus One』を作成した。『Plus One』を介した教員との対話によりメタ認知を高め生徒の成長を促すことおよび評価結果を新カリキュラムの改善にいかすことを推進していく。資質・能力は客観的な把握が難しく、結果が出るのに時間がかかることもある。だからこそ少しずつの変容を生徒・教員がともに気づき、その自覚を深め、さらなる成長につなげていきたい。